

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:19.

早産児に対するストレスの少ないオムツ交換の検討

佐々木 沙也加, 清水 沙耶加

早産児に対するストレスの少ないオムツ交換の検討

旭川医科大学病院 NICU ナースステーション ○佐々木沙也加、清水沙耶加

キーワード：早産児、ストレス、オムツ交換

I. 研究目的

NICUにおける看護ケアについて、オムツ交換に関する文献や先行研究はない。そこで、早産児のストレス軽減に効果を得られた先行研究を参考にして、ストレスの少ないオムツ交換の方法を実施し、その効果を明らかにして今後の課題を検討する。

II. 研究方法

1. 研究対象

修正週数 32 週 0 日以降 36 週 0 日未満の人工呼吸管理中の 1 名の早産児とした。期間は平成 24 年 7 月 6 日～8 月 3 日とした。

2. データ収集方法・分析方法

オムツ交換実施前・中・後にそれぞれ 1 分間のホールディングを行う場合と行わない場合、タオルでの包み込みを行う場合と行わない場合を組み合わせる 4 パターンを 1 回ずつ実施した。新生児の睡眠-覚醒状態（以下 State）¹⁾ ストレスサイン、心拍数、酸素飽和度を観察し、オムツ交換の方法別に変化を比較し、VTR での再評価を行った。

3. 倫理的配慮

事前に対象の保護者に、本研究の目的・方法、自由意志による参加の有無、守秘義務の遂行、VTR の取り扱いについて書面及び口頭にて説明し、同意を得た。施設内の倫理委員会の承認と主治医の許可を得た上で実施した。

III. 結果

タオルでの包み込みあり・ホールディングありの方法は、実施中・後にストレスサインが出現し、実施中は、手袋を交換している際にストレスサインが出現した。また、実施後のみ心拍数の上昇がみられた。タオルでの包み込みあり・ホールディングなしの方法は、実施中に心拍数の上昇がみられ、新しいオムツを入れる際にストレスサインが出現したが、実施後には心拍数は戻り、ストレスサインは消失した。タオルでの包み込みなし・ホールディングありの方法は、オムツ交換実施前・後のストレスサインの出現はなく、心拍数も安定していたが、実

施中のストレスサインは多かった。タオルでの包み込みなし・ホールディングなしの方法は、実施者が手袋交換を行う際やオムツ交換実施中・後のストレスサインが多かった。心拍数は実施中から上昇し終了後も下降しなかった。酸素飽和度はすべての方法において大きな変動はなく、State は概ね 2～3 を維持していた。

IV. 考察

オムツ交換時にタオルでの包み込みとホールディングを行った場合には、実施中のストレスサインの点数が最も低かった。一方、包み込みもホールディングも行わなかった場合は、実施中・後のストレスサインと心拍数は他の方法よりも上昇していた。そのため、包み込みやホールディングを行うことでオムツ交換時のストレスを最小限にできる可能性があると考えられる。

また、子どもから手を離れた際のストレスサインの出現が多かったため手を離す時は、タオルで下肢まで包み込み、子どもが屈曲位を保てるよう囲いに足底をつけることが必要である。屈曲位を保ちながら実施する手技の困難さがあるため、他のスタッフや家族でもできる方法を今回の研究を元に考えていく必要がある。

V. 結論

オムツ交換時には、タオルでの包み込みとホールディングを行い、常に屈曲位を維持することでストレスを軽減できる。

参考文献

- 1) T.Berry Brazelton, 川口幸義ら訳：ブラゼルトン新生児行動評価第 2 版, 18-21, 医歯薬出版株式会社, 1993.